

介護退職ゼロ作戦！オープニング



〈開会の辞〉

鎌田松代(男性介護ネット副代表)

男性介護者と支援者の全国ネットワークの副代表の鎌田松代といたします。どうぞよろしくお願いいたします。

たくさんの方がいらっしゃっていて、思った以上に大変うれしく思っています。お席のほう、3人がけの机ですので、空いているところもあります。後ろのほうでテーブル等使われたい方、前のほうが空いておりますので、どうぞおいください。

それでは、まず激励の挨拶をいただきたいと思います。

男性介護者と支援者の全国ネットワークのところで大変なご支援をいただいております公益財団法人キリン福祉財団常務理事の山形伸次さまが東京からおいでいただいておりますので、ご挨拶のほど、お願いいたします。

〈激励と連帯のご挨拶〉

山形伸次(公益財団法人キリン福祉財団常務理事)

皆さん、こんにちは。キリン福祉財団の山形でございます。一言だけご挨拶させていただきます。

日ごろは介護でなかなか時間とれない中、お越しいただきまして、ありがとうございます。私どもキリン福祉財団は、もう名前のとおり福祉に特化した財団でございます、この家族介護者の問題についても30年ほど前から、設立以来、レスパイト事業とかさせていただきまして、ここ5年ぐらゐ、津止先生初め、男性介護者のほうにちょっと力を入れて一緒に取り組んでいる次第でございます。

毎年、いろんな課題が、またまた出てくるんですね。また、昨年あたりから介護離職というんですか、こういった問題が起きてきて、このところにまたクローズアップして、今、取り組んで、ことしは介護退職ゼロ作戦ということで取り組まさせていただきます、このように皆様方の交流というんですか、こういった地域の中でいろんな問題を、こういった機会にマスコミの皆さんに知っていただくとか、ネットワークを通じていろんな情報を公開しながら社会に訴えかけていくことがこの問題解決につながっていくのかなと思って、私どもも微力ではございますけど、これからも皆様方と一緒にこの介護という問題、それから男性介護者のネットワークのこれから進む道をともに歩んでいきたいなと思っています。

きょうは、大変興味深い内容になっておりますので、どうぞよろしく願いいたします。

○鎌田松代

山形さま、ありがとうございました。

本当にたくさんの方においでいただいている、資料のほうがちゃんとお手元に届いているかどうか、心配になってきていますけれども、ご確認をしていただけますでしょうか。

それでは、もうお一人、ご挨拶をいただきたいと思います。独立行政法人労働政策研究・研修機構副主任研究員でいらっしゃいます池田心豪さん、激励の

ご挨拶をお願いしたいと思います。

〈激励と連帯のご挨拶〉

池田心豪(独立行政法人労働政策研究・研修機構副主任研究員)

本日はお招きいただきまして、ありがとうございます。労働政策研究・研修機構(JILPT)と言って、厚生労働省の雇用・労働問題を専門にした研究所の研究員をしております。ずっと仕事と家庭の両立を研究しておりまして、その一つの大きなテーマとして、仕事と介護の両立について研究しております。津止先生と数年前にお知り合いになりまして、私どもの研究にもご助言・ご指導をいただいているという関係で本日お招きいただきました。

皆さんご存知のように、介護休業が1999年(平成11年)から企業の義務になっています。しかし、お手元とというか、会場の入口のところに置いてある私の論文にも書いてあるのですが、仕事と介護の両立の実態の多様性に比べて、介護休業が必要な人というのは限られています。つまり、介護休業はもちろん大事な支援なのですが、これとは別の支援も必要だということが、政策の大きな課題になっています。しかし、具体的に、どういう支援が必要なのかということについて、実はまだよくわかってないことが多いんです。対比的に、子育てに関して言えば、どういう支援が必要かということは、ある程度わかっている。それをどう実行するかということに課題がある。一方、介護の場合は、どういう支援がそもそも必要なのかということについて、まだよくわかってない、ということです。

もう一つ、やはり介護は実態が非常に多様なので、標準的な支援制度を作るのが難しいという問題があります。法律で義務化するというのは国家権力の発動ですから、介護の実態はこうだといえる標準的な形が提示できないと、企業に義務づけることは難しい。そういう意味で、一人ひとりの介護者の方がすごく大変な思いをしているのに、支援の手を差し伸べることが難しいという状況がずっと続いています。

そういう中で、津止先生がこういったネットワークを組織されて、いろんな方の声を拾っていることはとても重要だと思っています。体験者の声を集めることで、だんだん「自分だけじゃなくて隣の人も同じような体験をしている」

とか、「ある程度多くの人に共通して必要な支援って、こういうことじゃないか」ということが見えてきているという状況にあります。私たちも調査研究を通じて、「今、介護者はこういう面で困っているんですよ」とか、「こういう制度があるけど、実は余り使い勝手がよくなくて、むしろこっちのほうが大事ですよ」とか、そういう声をどんどん拾って政府に伝えていきたいと思っています。ですので、きょう、皆さんの体験を聞く機会を持つことができ、非常にうれしく思っています。

ついでに宣伝なのですが、今ちょうど私たちの研究所で、仕事をしながら介護をしたことがある男性にインタビュー調査をしています。実は男性介護者ネットの方で、すでに数名、ご協力のお返事をいただいている方もいらっしゃいます。その方には、この場をかりて厚く御礼申し上げたいと思います。

これからもこういった機会を大事にして、介護退職ゼロを目指していきたいと思しますので、きょうはどうぞよろしく願いいたします。

○鎌田松代

池田さん、ありがとうございます。

今、会場のほうにもお配りをしたりしていますけれども、池田さんの論文はホチキスどめで、どうぞご自由にお持ち帰りくださいということで受付のところに置いていますので、またお帰りの際、お持ちになってください。

それから、労働政策研究・研修機構のご紹介のパンフレットもお持ちいただいていますので、御関心のある方は、どうぞ後で受付のほうでもらってください。

そうしましたら、お二人の方から激励のご挨拶をいただきましたけれども、これからは基調報告をしていきたいと思います。

津止正敏男性介護者ネット事務局長より、報告をお願いしたいと思います。よろしく願いいたします。